

経営比較分析表（平成29年度決算）

石川県 中能登町

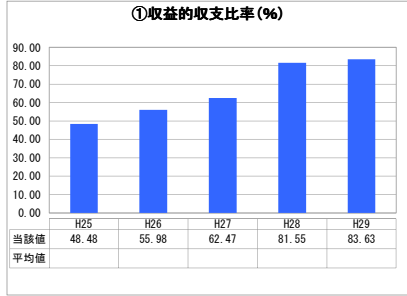
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家賃料(円)
-	該当数値なし	1.37	100.00	2,700

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,305	89.45	204.64
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
249	0.05	4,980.00

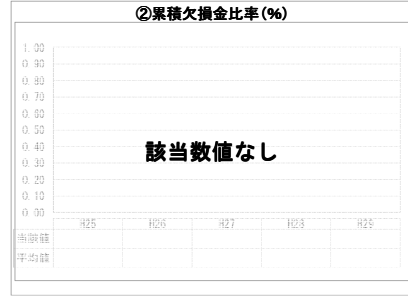
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



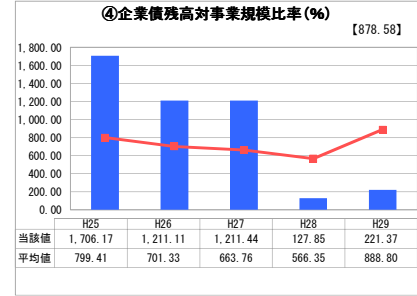
「単年度の収支」



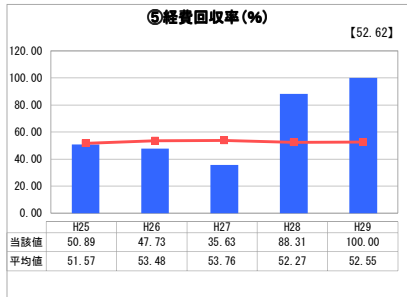
「累積欠損」



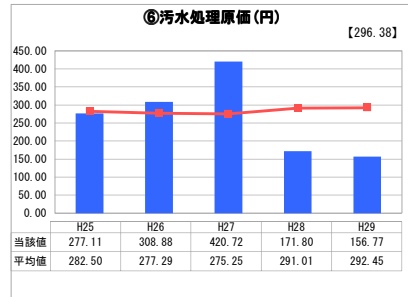
「支払能力」



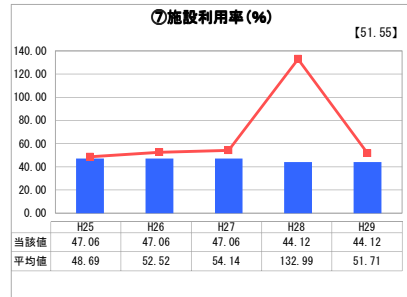
「債務残高」



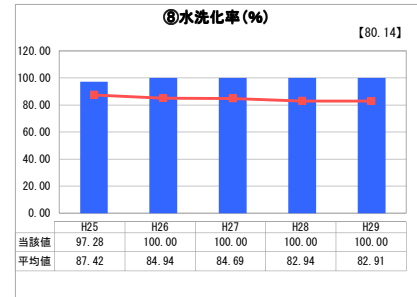
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
合併浄化槽の修繕は発生したが、浄化槽維持委託費は削減できたことから営業費用は減少となり、このため収益的収支比率はほぼ横ばいとなった。

④企業債残高対事業規模比率
人口が少ない世帯が多い中山間地域に主に合併浄化槽設置工事を行っているため、営業収益規模も小さい。このため、当初集中的に事業を行った際に借入した企業債残高が営業収益に比べて大きくなっており、企業債残高対事業規模比率が類似団体より合併当初は大きくなっていったと考えられる。しかし、分流式下水道等に要する経費の見直しを行ったことにより大幅な減となった。今年度は営業費用が減少したことにより、分流式下水道等に要する経費が減少し、これにより営業収益で賅う地方債現在高の比率が前年度より増となった。

⑤経費回収率
合併浄化槽の修繕工事は発生したが、維持管理費は削減できたことにより営業費用は減少となり、汚水処理費の減少となった。営業収益はほぼ前年度と同じであったため、経費回収率は改善となった。

⑥汚水処理原価
合併浄化槽の修繕工事は発生したが、維持管理費が削減できたため費用は減少となり、汚水処理原価の減となった。

⑦施設利用率
世帯当たりの人口が少ない中山間地域に主に設置しており、処理水量も小さいことから施設利用率が類似団体より小さくなっていると考えられる。

2. 老朽化の状況について

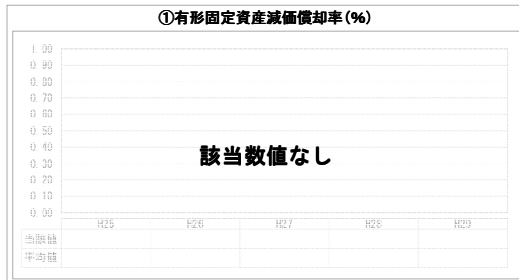
個別排水処理事業開始後に設置した合併浄化槽の経過年数は20年未満であり、更新、改良はまだ発生していないため改善率は皆無となっている。

全体総括

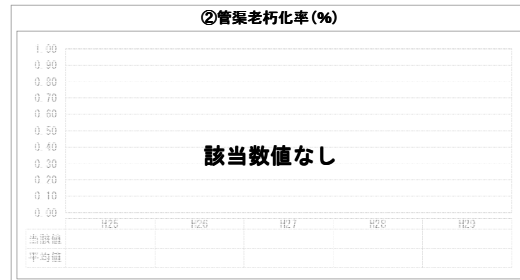
整備事業当初の借入企業債の残高が大きく、企業債償還が経営を圧迫している状況となっている。本来使用料収入で賅うべき償還額等を繰入金で賅っている状況のため、使用料収入の増収を目指していかなければならないと考えている。

町設置型合併処理浄化槽は町が維持管理を行っており、浄化槽の修繕、更新も町が施工することとなる。このため更新事業を一度に行い負担が大きくなることないように計画的な更新事業の計画を策定していくことが必要と考えられる。

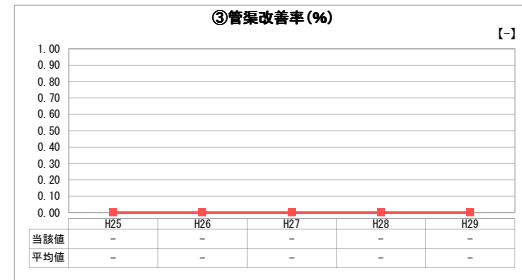
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。